

ヨーロッパの木造建築から 『木と建築と社会』を考える

講師

法政大学デザイン工学部教授 **網野 禎昭** 氏

プロフィール

1967年 静岡県生まれ
1990年 早稲田大学理工学部建築学科卒業
1993年 東京大学大学院修士課程修了
2002年 スイス連邦工科大学ローザンヌ校博士号
1999年 スイス連邦工科大学ローザンヌ校アシスタント
2004年 ウィーン工科大学アシスタントプロフェッサー
2010年 法政大学デザイン工学部教授



入場
無料

2018.4.2(月)
14:30~16:30
パレスグランデール

グッドデザイン賞2015：木のカタマリに住む



T-1グランプリ2016：ウッドエナジー



<後援>

山形県 / (一社)山形県建築士会 / (一社)山形県建築士事務所協会
(公社)日本建築家協会東北支部山形地域会 / (一社)山形県建築協会
やまがた県産木材利用センター



株式会社 平吹設計事務所

～美しく・安全に・使い易く～

【講師】 法政大学デザイン工学部教授 網野 禎昭 氏

受賞歴

2005年 オーストリア・シュバイクホッフアー賞

2015年 グッドデザイン賞ベスト100

2016年 木の建築賞

2017年 T-1グランプリ2016



【講演要旨】

伐採期を迎え木材を溜め込んだ日本の山々は、木造振興を待ち望んでいる。環境政策の強化と同期して、木材利用への関心は高まりつつあるのだが、反面、少子高齢化に伴う需要減も急速に進んでいる。これまでの時代とは異なり、現代の木造振興は物量的な需要がない中での林産資源活用という複雑な試みであり、建てられない社会の中で何を建てるべきかという問いと重なるものである。

欧州中央に位置する林産国オーストリアの動向は、その点非常に示唆に富むものである。ヨーロッパ諸国の中でも木造先進国といわれるオーストリアは、1980年代以降、公共的な建物を良質の木造として建設することで、社会の低炭素化、林産資源の循環的活用、地域産業の活性化を同時に実現しようとする試みに取り組んできた。近年ではそれに加えて、少子高齢化社会における公共建築の在り方を問うものとして、地域社会の生活機能を一つのコンパクトな建物にまとめる複合用途化にも積極的に取り組んでおり、成熟社会の木造建築を考える上での好例が散見される。

日本でも、長らく木造の中心を担ってきた戸建て住宅の着工数が激減し、公共建築など非戸建の木造化の必要性が叫ばれてはいるが、その在るべき姿について議論されているわけではなく、中大規模化の推進といった技術的挑戦が、縮小化の過程にある社会の状況とは切り離された形でテーマ化されている感は否めない。本講ではヨーロッパ中山間地域の伝統や先進的な建築例を辿りながら、これからの日本での木造建築の在り方、またそれを支える社会や技術について考えてみたい。

【参加申込】

株式会社 平吹設計事務所 TEL:023(666)7111 FAX:023(666)7112

【申込書】 ご記入の上、3月26日(月)までにFAXでお申込みください。

所属団体名(会社名)			
TEL		FAX	

お名前	お名前